

平成30年度 第3回 廃棄物減量推進部会会議

発言要旨

- 1 【日 時】 平成30年8月16日（木）10:00～11:45
- 2 【場 所】 西宮市役所 本庁6階 681会議室
- 3 【出席者】 全9名

項目	所属団体	役職名	委員名
環境計画推進 パートナーシップ 会議委員	大阪産業大学	教授	花田 眞理子
	NPO 法人子ども環境活動支援協会	理事	小川 雅由
	環境衛生協議会	会長	樋口 賢一
	公募市民	—	柳生 裕之
市民代表	甲東エココミュニティ会議	会長	山崎 由美
事業者代表	にしのみや環境サポート協同組合 (株式会社ヤマサ環境エンジニアリング)	常務取締役	川越 勉
	西宮商工会議所 (株式会社山一商会)	代表取締役社長	櫻田 健太
	生活協同組合 コープこうべ	理事	上田 久美子
市役所関係	学校教育課	指導主事	宇野 繁範

【事務局】 全12名

局	部	課	役職名	職員名
環境局	—	—	局長	須山 誠
	環境事業部	—	部長	田中 義弘
	環境施設部	—	部長	野田 敏彦
	環境事業部	美化企画課	課長	森川 信也
			係長	加羅 一巳
			係長	吉岡 崇
	環境施設部	美化第3課	課長	池田 信彦
			課長	小西 昇
		施設管理課	副主査	森本 雅樹
			課長	山村 康浩
			係長	高橋 能正
	環境施設部	施設整備課	技師	宮部 格

【会議支援】 2名 復建調査設計株式会社

- 4 【傍聴者】 1名
- 5 【欠席者】 0名

6 【会議の概要】

1. 出席者紹介

出席者の確認を行った。

2. 報告事項

1) 平成 30 年度第 2 回廃棄物減量推進部会の発言要旨の確認について

①花田部会長より、資料 1、平成 30 年度第 2 回廃棄物減量推進部会の発言要旨について説明が行われた。

→事前に送付し、確認をいただいております、質疑がないため承諾とする。(委員)

2) 次期基本計画素案の策定について

①事務局より、資料 2 の次期基本計画（暫定版）の修正対応について説明が行われた。

・ 47 ページの環境学習活動に関するコラムで、2 つ載せるということで良いのか。他にあるのか。(委員)

→代表的なところの活動を掲載する。(事務局)

・ 28 ページの図と 33～36 ページの数値の整合性が分かりにくい。(委員)

→数値が合っていない箇所は修正する。28 ページは現況の施策をすることで将来どれほどのごみ量になるかという将来予測であり、33～36 ページはいろいろな取り組みをするなかでここまで下げるという目標値であるので、28 ページの数字と 33～36 ページの数字が一緒になるわけではない。(事務局)

→努力したらごみ量は減るはずであるが増えている。(委員)

→見直す。(事務局)

・ 28 ページの人口推計について、総合計画の人口と違う。(委員)

→人口推計に使用しているのは、国立社会保障・人口問題研究所という平成 30 年 3 月に出されたもので、総合計画も将来的にそちらに合わせる予定である。若干総合計画の進捗が遅れていると聞いている。総合計画のほうに間に合わなかった場合は、本計画の人口推計は総合計画のほうに戻るかたちになる。(事務局)

・ 1 ページの 3 段落 2 行目の「それらの計画と～」からの文章が長い。この説明文と 2 ページの説明文で重複している気がする。(委員)

→見直す。(事務局)

・ 28 ページの将来予測に世帯数も入れて欲しい。人口は減るが世帯数は減らないとなると、ごみ量に影響されてくると思う。(委員)

→検討する。(事務局)

・ 7 ページは対象となるごみと処理の流れで、9 ページはごみ処理フローであると思う。(委員)

→修正する。(事務局)

・ 本計画が扱うごみに産業廃棄物が入っていないことを入れたほうが良いのではないか。(委員)

→7 ページに、「事業所から排出される産業廃棄物を除く事業系ごみ」と書いてあり、図にも産業廃棄物を除くと書いている。(事務局)

・ 18 ページのごみ処理経費について、国、県、中核市の比較を入れたらどうか。(委

員)

→他市がどんなやり方をやっているか、例えば収集運搬に限ると、直営・委託がどれくらいの比率でやっているかでもごみ処理経費が変わってくる。処理施設も、どういう処理設備かで変わってくるので、同一条件下にない状況で他市比較を出したとき、西宮市はもっと安くできるだろうと安易に捉えられる可能性があるため、西宮市に限定して過去の推移を見せている。(事務局)

- ・27 ページの「集団回収実施団体は増加傾向であるが」の部分だけ「ですます調」になっていない。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・27 ページの最後「～処理が困難な廃棄物のことをいいます」とあるが、「～処理が困難な廃棄物のことです」が良い。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・28 ページの図 3-1 のタイトルで、「原単位」という言葉が初めて出てくる。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・30 ページ 2 段落 2 行目で「ごみ排出量は着実に減少しています」と書いているが、事業系ごみが増えている話をしている一方で、ここで言い切って良いのか。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・34 ページのコラムで、「1 人 1 日 51 グラム当たり」とあるが、「当たり」はいらぬ。(委員)

→修正する。(事務局)

- ・47 ページのコラムで、2つのエココミュニティ会議について書いているが、自治会の集団回収や学校でやっている集団回収など地域のいろいろな活動を紹介したほうが、地域全体での取り組みが見えると思う。(委員)

→検討する。(事務局)

- ・49 ページの集団回収活動等への支援で、事業所の紙のリサイクルを考えると、集団回収とリンクできないかどうか。企業が地域に貢献したいという気持ちはあると思う。(委員)

→今の集団回収奨励金の対象は自治会や市民が出すものだけに限定しているので、将来的な事業系ごみの減量施策をやるなかで、こんな施策は考えられないかというところで考える部分である。(事務局)

→法律的な問題などに絡むかどうか分からないが、地域と企業の中で良い関係につながるならそれも一つの方法である。実際問題、なかなか資源回収ルートを全地域に展開するのは難しいのではないかと思う。(委員)

→会社独自で流通センターと行政の指導を仰ぎながら、西宮市と鳴尾浜とで連携してモデルをやっている。古紙の業者と連携するなど何か方法はあると思うので、行政と連携して事業者を理解していただき、西宮独自のかたちで作っていかれると思っている。(委員)

→事業系ごみについて、各企業が自助努力で資源化できるものは資源化していただきたいと思う。市民がやっている集団回収の事業者向けのを何かできないかというときに、事業者が出す古紙もそのまま市のごみ排出量に全部カウントされるという問題がある。集団回収量が、市民が出した生活系ごみか、事業者が出した事業系ごみか、ごみが減る部分との兼ね合いもあるので、その辺でどういうや

り方が一番数字的にも良く見えるかも考えていかなければいけない。他の自治体がどんなことをやっているか研究しながら、事業者の古紙のリサイクルがどうやったらより進めやすくなるかのシステムづくりを考えていかなければいけないというのが課題としては認識しているところである。(事務局)

- ・50ページの第1節で「廃棄物減量推進部会等で見直し検討を行います」とあるが、一般の人が見たときに、廃棄物減量推進部会が分からないと思う。(委員)
→修正する。(事務局)

②事務局より、資料3の基本理念(案)について説明が行われた。

- ・環境基本計画と本計画の基本理念が一致していないと、市民の方のイメージが崩れることになるのではないかと。今回提案していただいている基本理念は、どちらかという環境基本計画全体を通じても言わなければいけない言葉である。本計画では、廃棄物に絡むところを主体として表現することで、市民にとっては分かりやすいのではないかと。(委員)

→環境基本計画の環境目標で、「資源を有効に活用し、ごみを少なくするまちへ」というのを本計画の基本理念にしてはどうか。非常に整合性があると思う。(委員)

→環境基本計画の「資源を有効に活用し、ごみを少なくするまちへ」を基本理念とすることは良いと思う。副題の部分で補足するようなことがあれば、パートナーシップ会議に提案したい。(事務局)

→30ページの基本理念(案)にある、「2Rとリサイクル」という表現は違和感がある。これを主題とするのは難しいと感じる。3Rから2Rとリサイクルへ変えるということは大きな方針転換になるので、説明が必要である。(委員)

→学校で子どもたちは、3Rという言葉は普通に使うようになっているのか。(委員)

→子どもに限らず教職員みなに定着していると思う。先日の環境担当者会で、2Rという概念を教えていただいたことで、2Rという考え方もあることをあらためて知った方もいた。一担当者だけが聞くべき問題ではなく、幅広く知ってもらわなければ困るという感想を持たれていた方もいた。(委員)

- ・一般市民として、まずリサイクルより、買う前の姿勢として、どこに重きを置いて選ぶかである。簡易包装にする、袋はいらないなど自分たちの意思を前面に出して商品を選ぶ、それがいろんなところにつながるということを、もっと訴えられるようなものが良いのではないかと。リサイクルは買った後のことなので、その前の段階からが大事だと思う。(委員)

- ・主題を「資源を有効に活用し、ごみを少なくするまちへ」とすると、資源を有効活用することがごみを減らすという言葉になるため、「ごみを少なくし、資源を有効活用するまちへ」としたほうが良いのではないかと。どの言葉が先にあるかによって、人は優先順位を考えてしまうので、リサイクルを推進しごみの少ない社会へと言われたら、リサイクルという言葉が前に出る。先に「ごみを少なくし」。を置いたほうが良いと思う。(委員)

→「ごみを減らし、資源を有効に活用するまちへ」としてはどうか。(委員)

→きれいで良いと思う。(委員)

- ・副題は、主題「ごみを減らし、資源を有効に活用するまちへ」にするためにどうし

たら良いかを持ってこないと分かりにくいと思う。(委員)

→主題を説明するのが副題である。主題が分かりやすいので難しい。(委員)

→副題をつけなくても良いと思う。主題を「ごみを減らし、資源を有効に活用するまちへ」とし、副題は中を見てもらうこととしたらどうか。(委員)

→そのかたちで作らせていただく。(事務局)

- ・基本理念の内容(文章)は、Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)の2Rを積極的に推進し、出された資源を有効に活用するというようなことを説明して、2Rプラスリサイクルがその意味だということがわかってもらえるように書くと良い。(委員)

→西宮市ならではの「学びあい」のことをぜひ入れていただきたい。(委員)

3. 確認事項

1) 今後のスケジュールについて

事務局より、第4回廃棄物減量推進部会の予定について説明された。

- ・10月に市議会にパブリックコメント実施について報告する。パブリックコメントは10月26日から11月26日の1ヶ月間実施する予定である。来年1月に、パブリックコメントの結果を市議会に報告し、来年2月に4回目の部会を開催し、完成版という形の次期基本計画を確認していただきたいと考えている。(事務局)

→本日委員の皆さんからの意見を反映した素案修正版は、10月の議会報告までに各委員に確認してもらえるのか。(委員)

→10月10日に議会に報告する予定になっている。その前に、議長副議長に先に説明に回らなければいけないので、パブリックコメントにかける素案は9月中に完成しておかなければ間に合わない。本日いただいた意見を反映したものは9月中には各委員へ送らせていただくことになると考えている。(事務局)

以上